

# 豊かな言語環境づくりプログラム

## 子供たちに豊かな言語環境を

国語力の向上を図り、確かな学力を育成するために

※ あなたの学級（学校）の言語環境は？ 次の各項目をチェックしてみましょう！ ※  
（A：そうである B：ほぼそうである C：あまりそうではない D：そうではない）

このシートのチェックは教師のあなた自身が行ってください。CかDにチェックが付いた項目は、言語環境に課題があると思われる項目です。早速、このリーフレットを開いて該当項目に目をおしてください。必ず、改善のヒントがつかめるはずです。

（なお、さらに詳しい利用方法については、別冊の「活用の手引」をご覧ください。）

1. あなたは、児童生徒に対して適切な言葉づかい（正しく、ていねいで、温かく、命令口調でなく、ぞんざいでない言葉）で話している。 ……A・B・C・D→取組例①へ
2. あなたは、正確でていねいな字で、工夫して、板書している。 ……A・B・C・D→取組例②へ
3. あなたの学級（学校）では日常的にあいさつが交わされている。 ……A・B・C・D→取組例③へ
4. 児童生徒は、場面に応じて、適切でていねいな言葉づかい、適切な声量で話している。 ……A・B・C・D→取組例④へ
5. 児童生徒は、辞書をよく引き、豊かな語彙をもって、言語活動を行っている。 ……A・B・C・D→取組例⑤へ
6. 児童生徒に、読解力（テキストを理解し、利用し、熟考する能力）が身に付いている。 ……A・B・C・D→取組例⑥へ
7. あなたは、授業で新聞などの活字媒体を積極的に活用している。 ……A・B・C・D→取組例⑦へ
8. あなたは、話したいことや書きたいことを日常的にメモしておくことを、児童生徒に習慣化させている。 ……A・B・C・D→取組例⑧へ
9. あなたは、一斉読書・読み聞かせ・本の紹介などをとおして、自ら本を読む児童生徒を育成している。 ……A・B・C・D→取組例⑨へ
10. あなたは、家庭におけるあいさつの習慣化、親子の会話、読み聞かせ、親子読書などを積極的に呼びかけている。 ……A・B・C・D→取組例⑩へ

# 具体的な取組例

言葉は暗闇に光を与えます。

国語力向上推進協議会委員長 山梨大学教授 須貝千里

わたくしたちは言葉を用いて生活しています。

当たり前のことです。しかし、そのことがどんなにかけがえのないことであるか、考えてみたことがあるでしょうか。

言葉は「私」を創り出します。言葉は「私たち」をつなぎます。言葉は暗闇に「光」を与えます。言葉は、空気のように、水のように、かけがえのない世界遺産であり、創造の源であります。

国語力の向上のために、豊かな言語環境づくりをすすめ、そうした言葉の力をすべての子供たちが獲得できるようにしていく必要があります。

このリーフレットは、そのための具体的な取組例を示しています。

すべての小中学校で、広く活用されることを願っています。

1

## 教師は、適切な言葉づかいで



教師は正しく、ていねいで、温かい言葉づかいをしましょう。そのためには、自分自身の言葉づかいをテープなどに録って聞き直したり、児童生徒や同僚から意見を聞いたりすることが有効です。

手引 No.7 ~ No.9 参照

正確な字で、ていねいに、工夫して板書するように努めましょう。そのためには、板書計画を立て、色チョークやマグネットシートなどを効果的に使いましょう。自分の板書を振り返ったり、同僚と見合ったりすることも大切です。

手引 No.10 参照



2

## 板書は、正確に、ていねいに、工夫して

## 3

## あいさつの習慣化を

手引 No.14 ~ No.16 参照

あいさつは、豊かな言語環境のための基盤となるものです。あいさつの習慣化を図るためには、児童会・生徒会の取組が効果的です。ポイントは、〔あ〕かるく、〔い〕つでも、〔さ〕きにす、〔つ〕づける、です。



場面に応じた言葉づかいと声量で話せるように指導しましょう。そのためには、目上の人と話す機会を設けたり、言われてうれしい言葉・いやな言葉などをロールプレイで体験させたりすると効果的です。

手引 No.20 ~ No.25 参照

## 4

## 場面に応じた言葉づかいと声量で

## 5

## 児童生徒の語彙を豊かに

語彙を豊富にすることは、知識ばかりでなく豊かな心をはぐくむためにも大切なことです。そのためには、漢字を習得させることが欠かせません。また、辞書引きの習慣化、名文・名句等の暗唱、読書の習慣化なども効果があります。



手引 No.26 ~ No.29 参照

## 6

## 「読解力」の向上を



「読解力」は、これからの時代に特に必要とされる力です。これを身に付けさせるには、すべての教科・領域でテキスト（図表を含む）を理解し、利用し、熟考する能力を身に付けさせるよう指導していく必要があります。

手引 No.31 参照

授業で新聞などを使うことは、生きた言語を学ぶ大切な機会になります。そのためには、NIEの実践例を参考にして、情報を活用し、自分の考えを積極的に発信していく学習などに取り組ませると効果的です。

手引 No.37 参照



## 7

## 新聞などの活字情報の活用を

## 8

## 話のたねのストックを



話したいこと・書きたいことを日常的にメモさせることは、考える力を育て、話す力・書く力の基礎をつくるのに効果的です。そのためには、常にメモ帳を持たせ、書く時間を確保し、話のたねをストックしておく習慣を身に付けさせることが大切です。

手引 No.38 ~ No.39 参照



すべての学校で、「声かけ、あいさつ」運動をすすめてみましょう！

「あいさつ」をすると気持ちがいいね。

「あいさつ」は心と心をつなぐ言葉だね。

おはようございます

ありがとう

ごめんなさい

こんにちは

さようなら

いいえ、ちがいます

はい、そうです

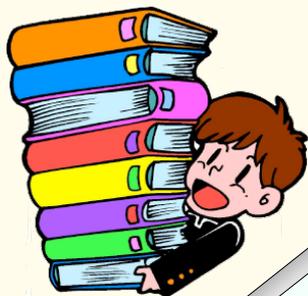
がんばったね

9

## 自ら本を読む児童・生徒の育成を

読書は、国語力向上の大きな柱です。読書習慣を身に付けさせるためには、一斉読書・読み聞かせ・ブックトーク・本の紹介などをおして、児童生徒が読書に継続的に興味をもてるような環境をつくっていくことが大事です。

手引 No.45 ~ No.51 参照



家庭における豊かな言語環境をつくるためには、おたよりなどによる学校からの積極的な呼びかけが必要です。例えば、親子読書・読み聞かせ・親子の会話などが効果的です。家庭は、豊かな言語環境の基盤です。

手引 No.53 ~ No.57 参照

10

## 家庭における言語環境づくりの呼びかけを